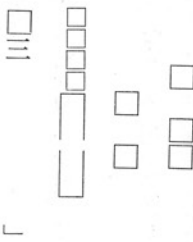




8 木簡の積文・内容

(1) ・ 「

・ 「 申 値置六



172×(130)×5 061

折敷底板で右側は欠けている。習書か。

9 関係文献

大阪府教育委員会『池上・曾根遺跡発掘調査概要XV』（一九八二年）
（森井貞雄）

大阪・万町北遺跡（第二次調査区）

- 1 所在地 大阪府和泉市万町
- 2 調査期間 一九八三年（昭58）五月～一九八四年（昭59）二月
- 3 発掘機関 和泉丘陵内遺跡調査会
- 4 調査担当者 灰掛 薫・森 茂
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代後～晩期、弥生時代中～後期、古墳時代後期～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

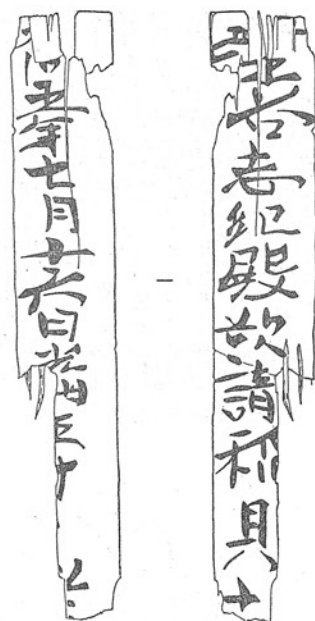


（岸和田）

万町北遺跡は、現在の和泉市万町集落の北西方一帯に広がる段丘面上に位置する複合遺跡で、調査は遺跡の所在する和泉丘陵地区の開発事業（主体、住宅・都市整備公団）に伴い、一九八二年度より実施している。その結果、第一次調査（一九八二年）においては弥生時代中期の方形周溝墓・堅穴住居、古墳時代後期

の堅穴住居・掘立柱建物、奈良～平安時代の掘立柱建物等を検出した。

木簡を出土した今回の調査では、奈良～平安時代の掘立柱建物を中心に、同時代の井戸一基、弥生時代中～後期、古墳時代後期の堅穴住居等を検出した。井戸は木枠組のもので、掘形天端径約三・〇m、深さ三・五m、最下段の枠板（幅一・〇m、高さ四〇cm、厚さ九cm）のみが方形に組まれて残っており、木簡はこの枠内の堆積土より一点だけ出土した。他に「中家」と書かれた墨書土器（須恵器杯A類）と、横櫛・箸・曲物等の木製品を伴っている。井戸の周辺には北側約一〇mの位置に倉が一棟、南側約二五m付近から調査区南限にかけて一六棟の建物が発出されている。これらの建物は、一部の柱掘形から奈良後期～平安前期頃の土器片を出土した例を含み、今のところこれらの建物群が井戸、ひいては木簡と関連する可能性が高い。



また、井戸の東側一五m付近から調査区東限にかけても八棟の掘立柱建物から成る建物群が存在するが、現在のところこの建物群からは六世紀末の遺物しか検出していない。

なお、第二次調査区における遺構等の概要報告は来年三月に行う予定である。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ・「謹啓志紀殿欲請稲具」□×

・「大同五年七月十六日光」□□□□×

(1.3)×2.4×2.5 0.9

木簡は表裏面とも墨書の存在するもので、年号部分は潰れて完全には残っていないが、残存する字画からは「大同」になると考えられる（釈文に関しては、奈良国立文化財研究所の鬼頭清明氏より御教示を得た）。

9 関係文献

和泉丘陵内遺跡調査会『和泉丘陵内遺跡発掘調査概要Ⅲ』（一九八四年）

（森 茂）